

クラシック音楽に関心のある人、樋口ゼミに集まれ！

樋口ゼミは、クラシック音楽のコンサートを企画立案し、それを実現して、日本にクラシック音楽を広めるためのゼミです。

2009年4月に発足以来、日本を代表する作曲家・三枝成彰、日本を代表するチェリスト・山本裕康をはじめ、これからクラシック音楽界の大スターになる若手演奏家を招いて、パルテノン多摩や渋谷区のHAKUJU HALLなどで、合計6回の一流プロの演奏家によるコンサートを開いてきました。10月21日にも、パルテノン多摩小ホールでフィルハーモニア多摩のメンバーによるコンサートを開きます。そのほかにも、現在いくつかのコンサートをゼミ生が企画中です。

いずれも、「ジブリ」の音楽や「ヘンゼルとグレーテル」の音楽など、親しみやすい音楽を交えて、子どもからお年寄りまで楽しめるクラシック音楽のコンサートです。

なお、ゼミの時間は、小グループに分かれてコンサートの企画を練るほか、コンサートのプレゼンや、クラシック音楽の知識を深めるための音楽映画やオペラ映像などの鑑賞も行います。

クラシック音楽に関心のある人、これからクラシック音楽を少し聴いてみたいと思っている人、イベント企画に関心のある人！ 自分たちでコンサートを企画し、自分たちの交渉によって演奏家を呼んで、多くの人に感動的な演奏を聴いてもらいませんか？ そんな人たちを待っています！

樋口ゼミの活動

- ・2009年4月 多摩大学樋口ゼミ発足。
- ・2009年6月26日、多摩大学101教室にて、新居由佳梨（ピアノ）と江島有希子（ヴァイオリン）を招いて「あらえじ・カンタービレ」を主催。親しみやすい曲のほか、ワックスマンの「カルメン幻想曲」、リストの「ラ・カンパネッラ」、ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ第5番「春」などを演奏。
- ・2009年9月18日、多摩大学101教室にて、日本を代表する作曲家の三枝成彰氏を招いて演奏会を運営。日本を代表するチェリスト山本裕康、有望なピアニスト新居由佳梨により三枝成彰の作品「チェロのためのレクイエム」改定版を日本初演。そのほか、バッハの無伴奏チェロ組曲第一番、ポッパーの「ハンガリー狂詩曲」、リストの「ラ・カンパネッラ」などの有名曲を演奏。
- ・2009年11月10日、パルテノン多摩大ホールで、世界が注目する若手のホープである佐藤俊介（ヴァイオリン）と菊池洋子（ピアノ）により多摩大学20周年記念コンサートを運営。曲目は、フランクのヴァイオリン・ソナタ、ラヴェルの「ツィガーヌ」など。樋口ゼミの学生たちがこのコンサートを準備し、成功に導く様子が多摩テレビでも紹介された。
- ・2010年8月25日、新居由佳梨（ピアノ）、江島有希子（ヴァイオリン）、三宅理恵（ソプラノ）を招いて、渋谷区のHAKUJU HALLで「音楽の宅急便」と題したコンサートを主催。ジブリの曲（「もののけ姫」「君をのせて」など）のほか、サン・サーンスの「序奏とロンド・カプリチオーソ」、シューベルトの「糸を紡ぐグレートヒエン」、ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ第5番「春」などを演奏。
- ・2011年4月8日、若手コロラトゥーラ・ソプラノのホープ森美代子、フィルハルモニア多摩のメンバー、そして多摩フィル音楽監督の今村能を招いて、パルテノン多摩小ホールにて「多摩音楽祭前夜祭、フィルハルモニア多摩、室内楽第一回定期演奏会」を運営。東日本大震災後のコンサートだったために、最初にバッハの「アリア」を演奏し、その後、ヨハン・シュトラウスの「ウィーンの森の物語」「春の声」、モーツアルトの「魔笛」から夜の女王のアリアを2曲、ロッシーニの弦楽のためのソナタ、最後にリヒャルト・シュトラウスの「カプリツォ」の導入曲などを演奏。
- ・2011年7月、フィルハルモニア多摩の金管楽器のメンバーによって、サン・サーンスの「動物の謝肉祭」、フンバーディングのオペラ「ヘンゼルとグレーテル」などの金管五重奏にて演奏。「ヘンゼルとグレーテル」には、多摩フィル音楽監督の今村能の語りがついた。

現在、樋口ゼミは、フィルハルモニア多摩との協力のもと、2012年度に多摩音楽祭を開催するべく、準備を進めている。

なお、指導者の樋口裕一は、多摩大学では文章術を中心に指導しているが、250万部のベストセラーになった『頭がいい人、悪い人の話し方』など200冊以上の著書がある。『頭がよくなるクラシック』『笑えるクラシック』『ヴァーグナー 西洋近代の黄昏』『音楽で人は輝く』など、クラシック音楽関係の著書も多い。